

(ニュースリリース)

アルミ製造に係るコスト及び価格転嫁の状況に関するアンケート調査結果

2022年12月

(一社) 日本アルミニウム協会

当協会では、この度、アルミ製造に係るコスト及び価格転嫁の状況に関するアンケート調査を実施しました。

調査の背景には、原燃料をはじめとするエネルギー価格や原材料価格が高騰し、影響が長期化している中、適切な価格転嫁等により、サプライチェーン全体でコストを負担していくことが重要となっており、政府においても適正取引化のための自主行動計画の改訂等により、コストの適切な価格転嫁とサプライチェーン全体での分配を求めていることがあります。

調査対象企業、調査期間、調査内容は以下の通りです。

○調査対象企業： 当協会の会員企業（アルミ製品メーカー：地金部門、圧延・押出部門、加工・組立部門、鋳鍛造部門に属する全77社）にアンケート

*回答企業：59社（回答率：76.6%）

○調査期間： 2022年11月2日～12月5日

○調査内容：

1. アルミ製造に係るコストの状況調査

2021年9月を100とした場合の足元（2022年7-9月）の指数を調査

- ① 原燃料コスト（原油・重油・灯油・電気・LNGなど）
- ② 物流・梱包コスト（陸送・海上輸送など、梱包資材など）
- ③ 副原料コスト（添加合金 Mg、Si、Cu、Mn、Zn など）
- ④ 部品コスト（アルミ製品の組み立て部品や治具など）
- ⑤ 労務費コスト

2. コストアップの価格転嫁の状況調査（十分に転嫁できている ～ 減額された）

次頁以降に調査結果をご案内いたします。

【問合せ先】 一般社団法人日本アルミニウム協会

企画部門／飯田康二 k-iida@alkyo.jp 03-3538-0229

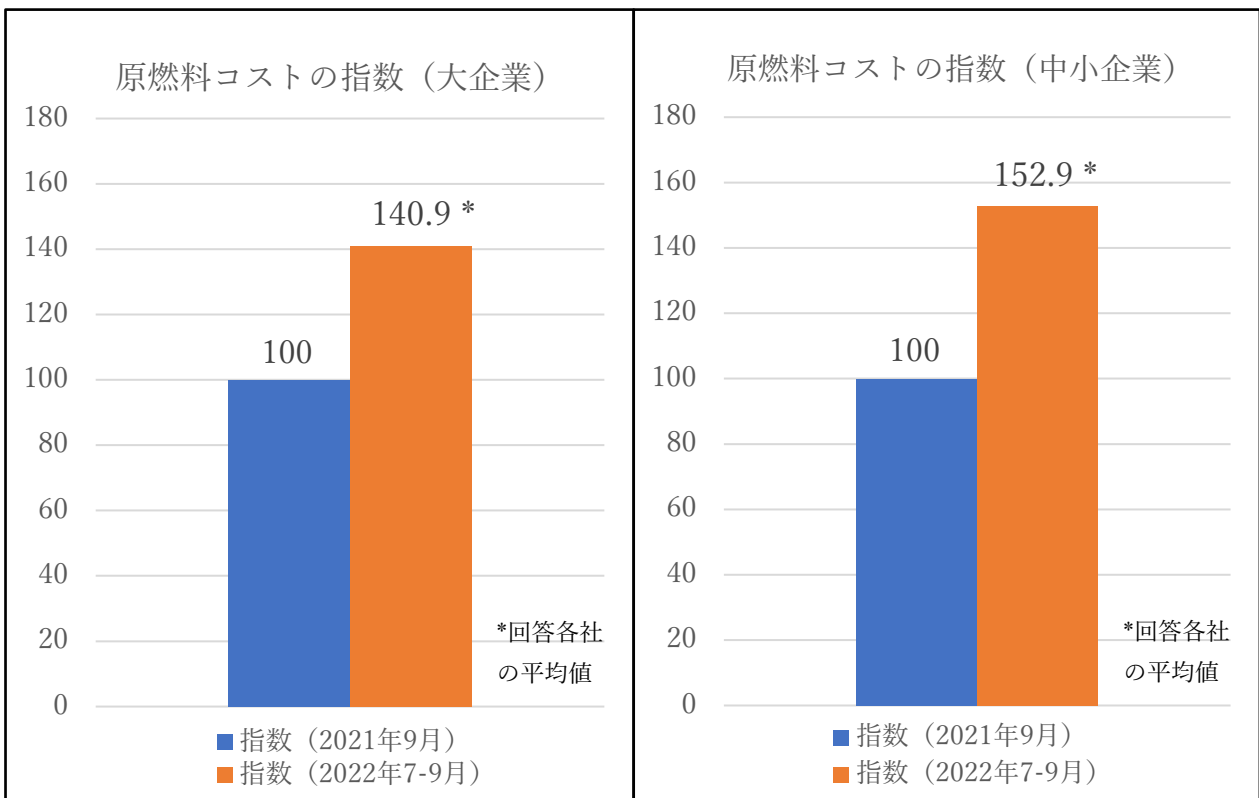
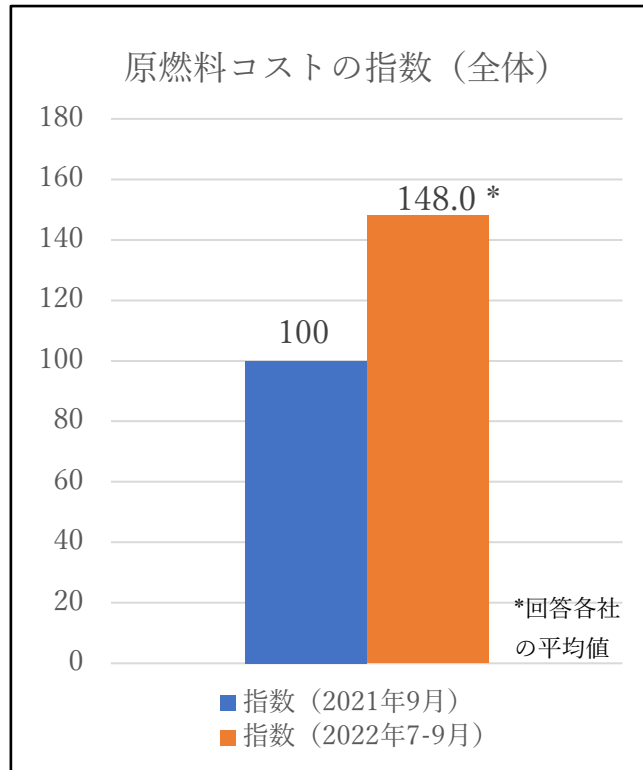
鷹村淳史 a-takamura@alkyo.jp 03-3538-0227

以上

【調査結果】

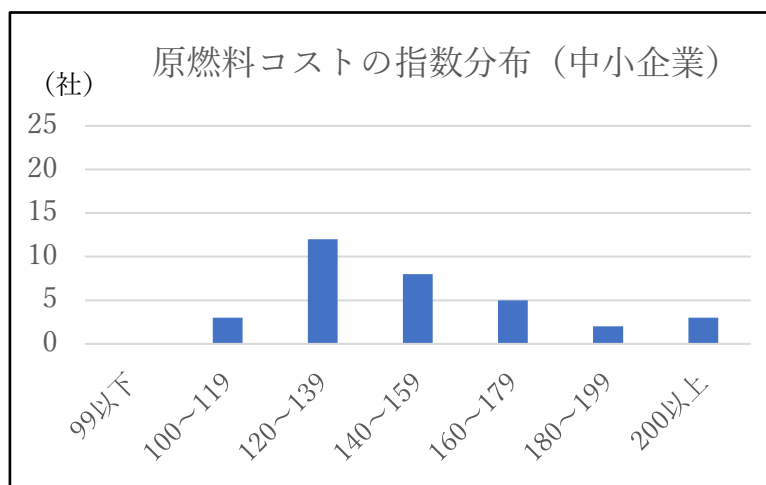
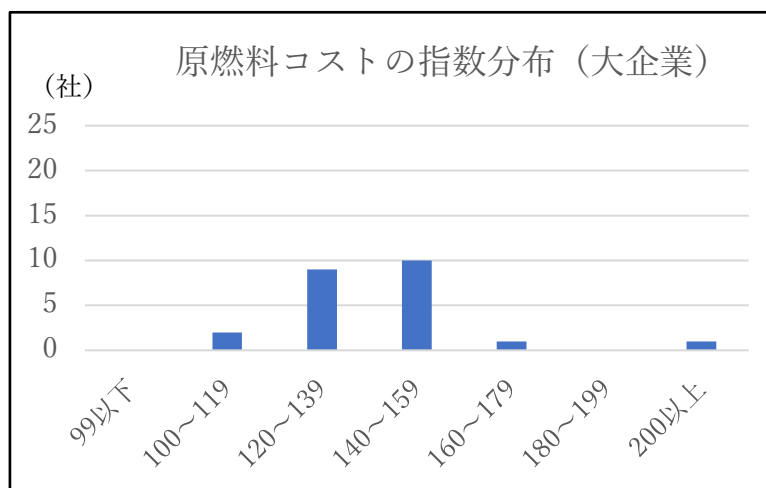
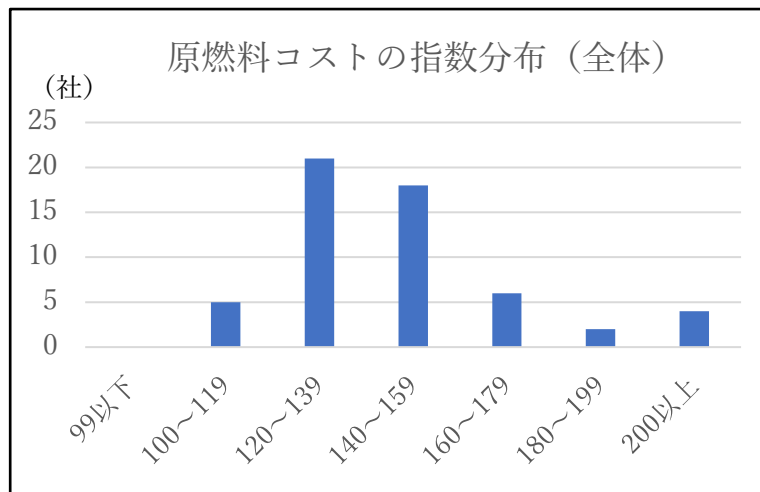
1. 原燃料コスト（指数平均）

- 原燃料（石油/重油/灯油/電気/LNG など）のコストは、2021年9月を100とした場合、足元（2022年7-9月）の指数は148.0と**5割近い上昇**



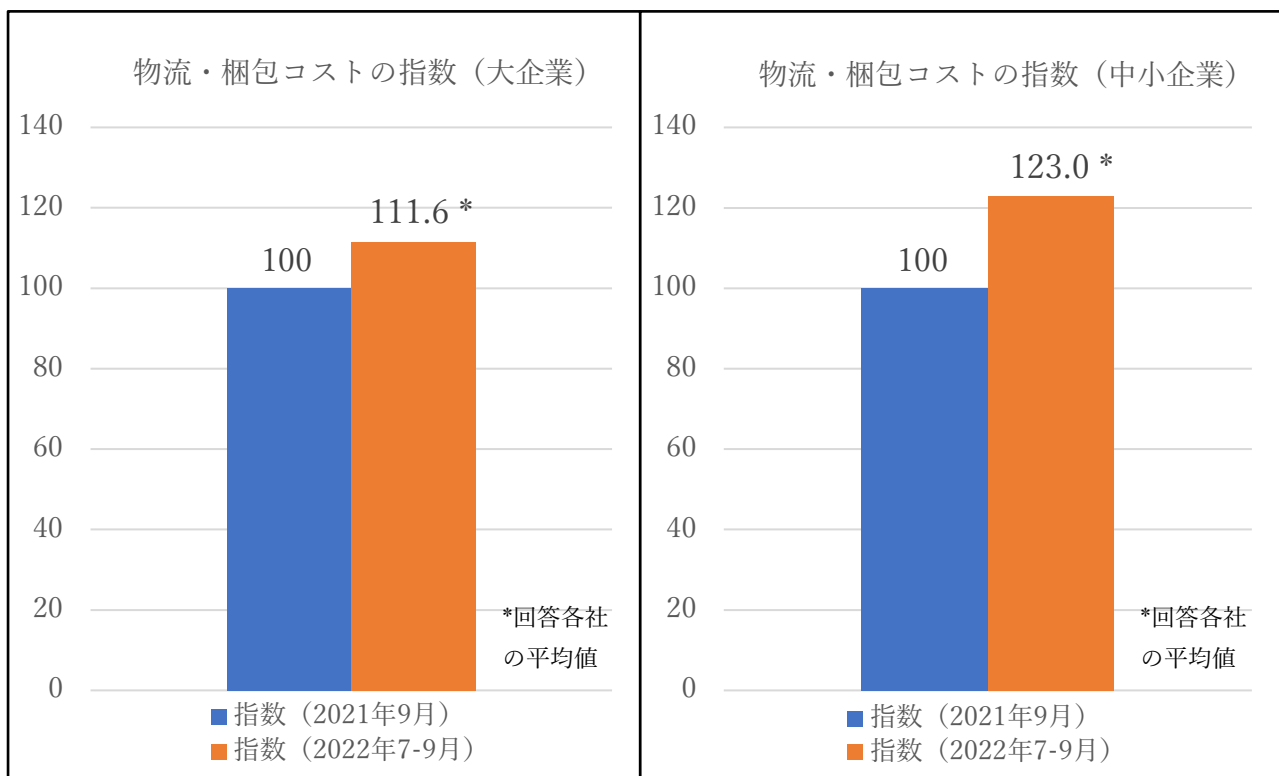
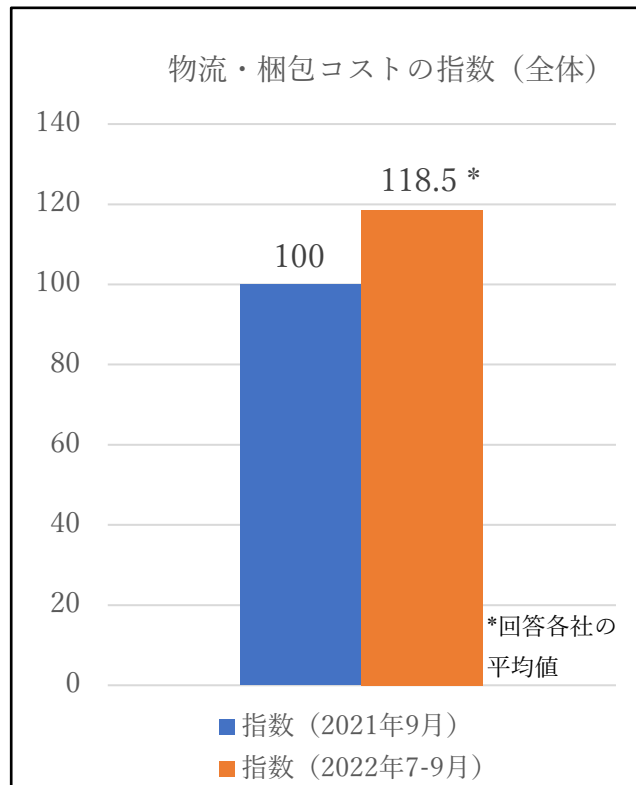
1. 原燃料コスト（指数分布）

- ・原燃料（石油/重油/灯油/電気/LNG など）のコストは、2021年9月を100とした場合、足元（2022年7-9月）の指数分布は、120～139が最も多く、次いで140～159 2倍以上上昇した社も存在



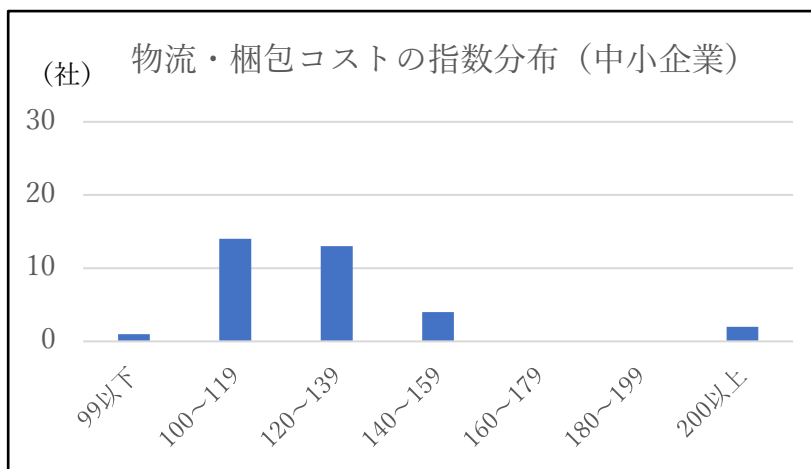
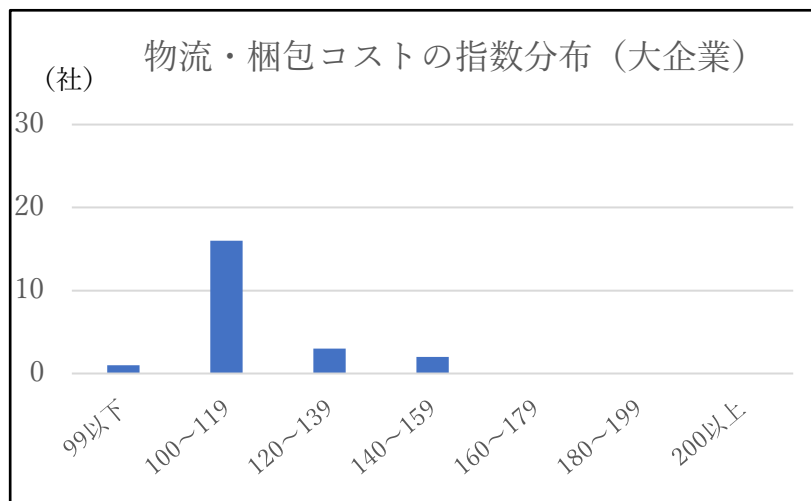
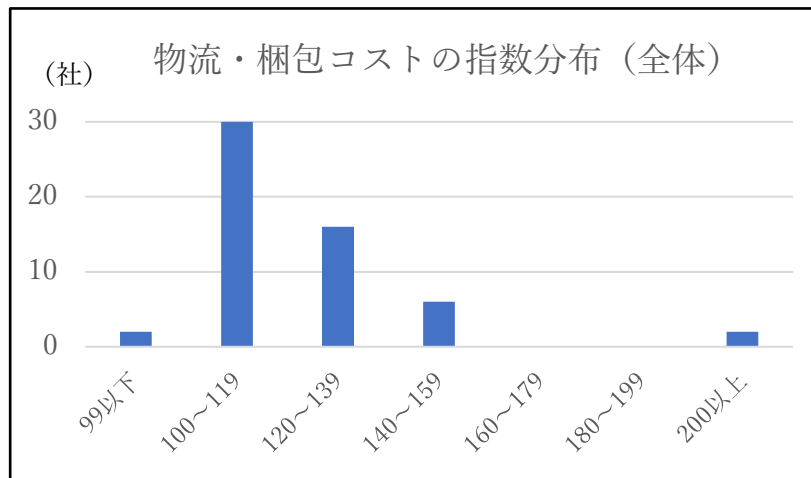
2. 物流・梱包コスト（指数平均）

・物流（陸上、海上輸送など）や梱包のコストは、2021年9月を100とした場合、足元（2022年7-9月）の指数は118.5と**2割近い上昇**



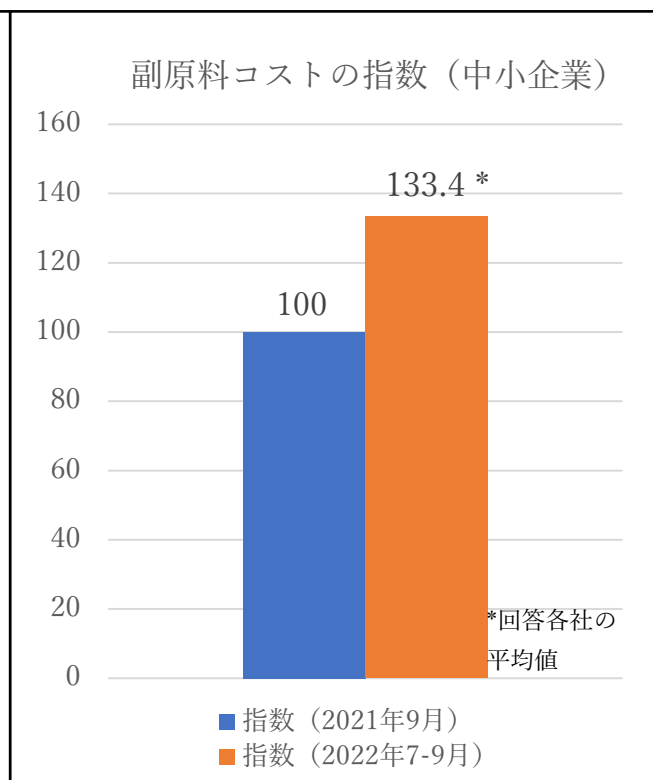
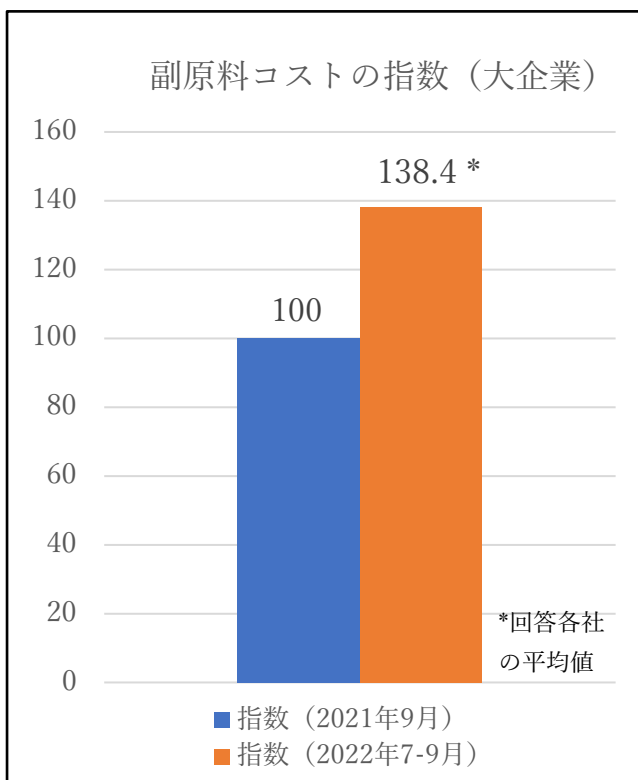
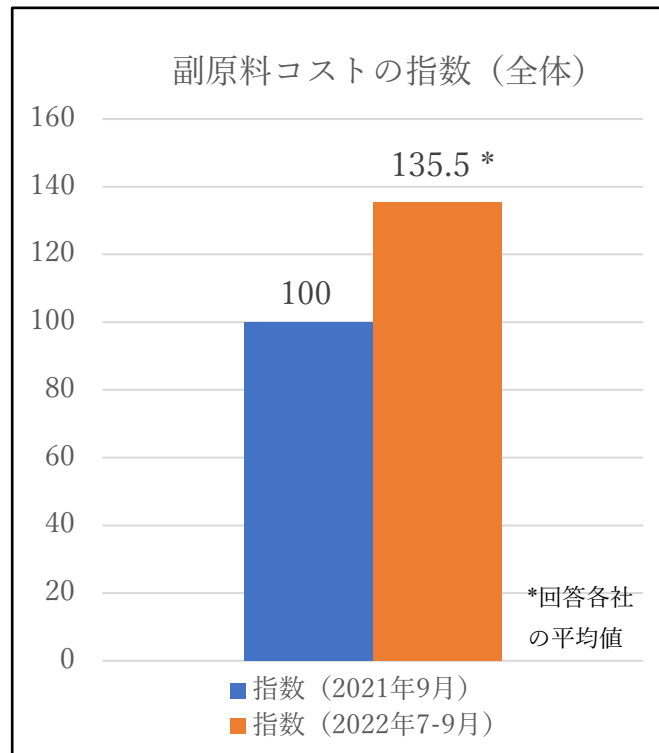
2. 物流・梱包コスト（指数分布）

- ・物流（陸上、海上輸送など）や梱包のコストは、2021年9月を100とした場合、足元（2022年7-9月）の指数分布は、100～119が最も多く、次いで120～139 2倍以上上昇した社も存在



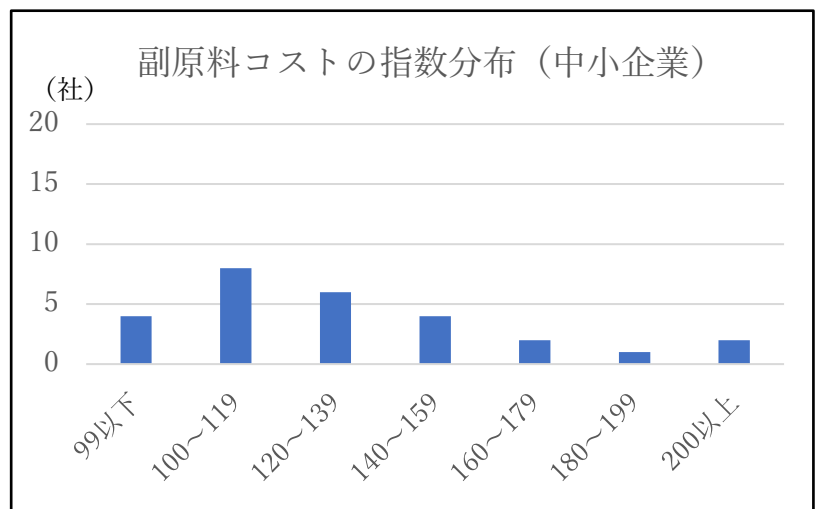
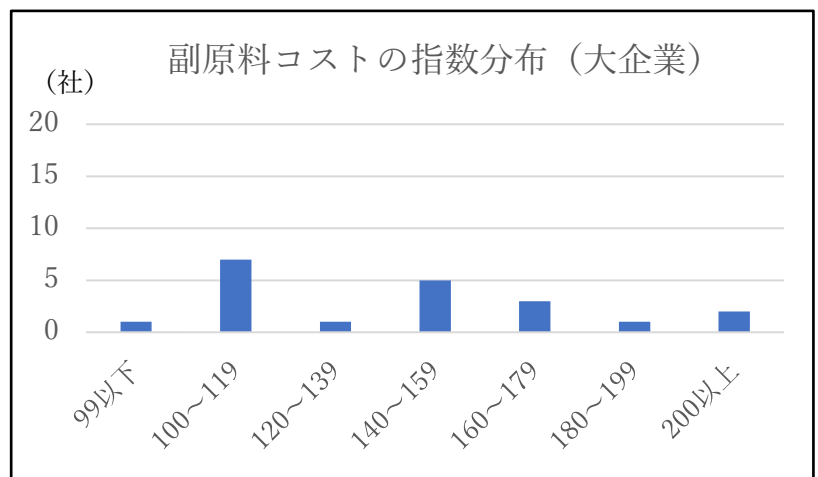
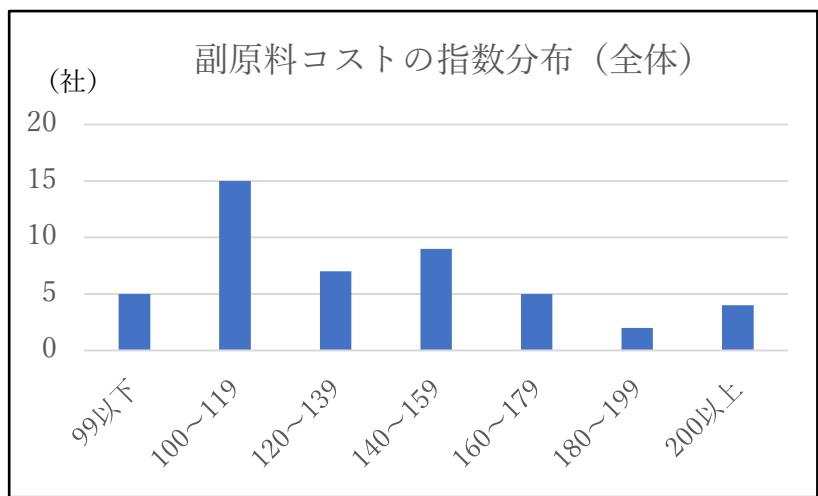
3. 副原料コスト（指数平均）

- 副原料（Mg、Si、Cu、Mn、Zn など）のコストは、2021年9月を100とした場合、足元（2022年7-9月）の指数は135.5と**3割以上上昇**



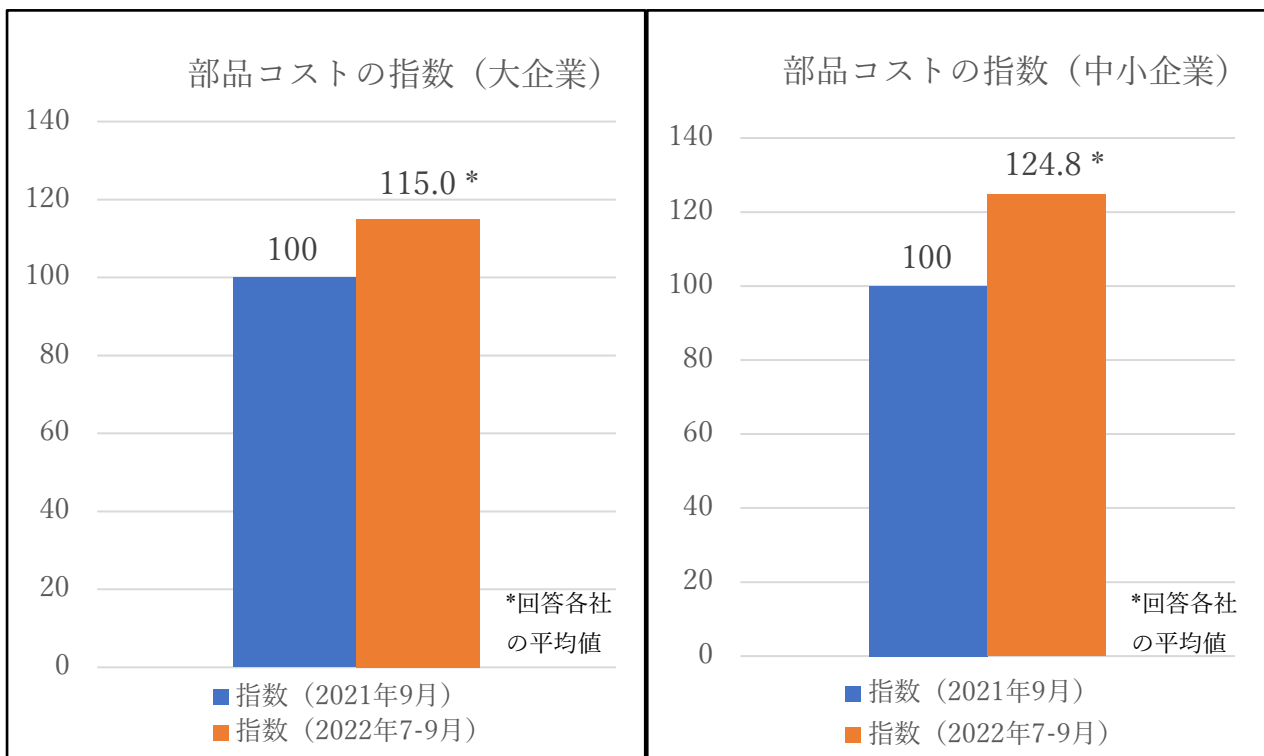
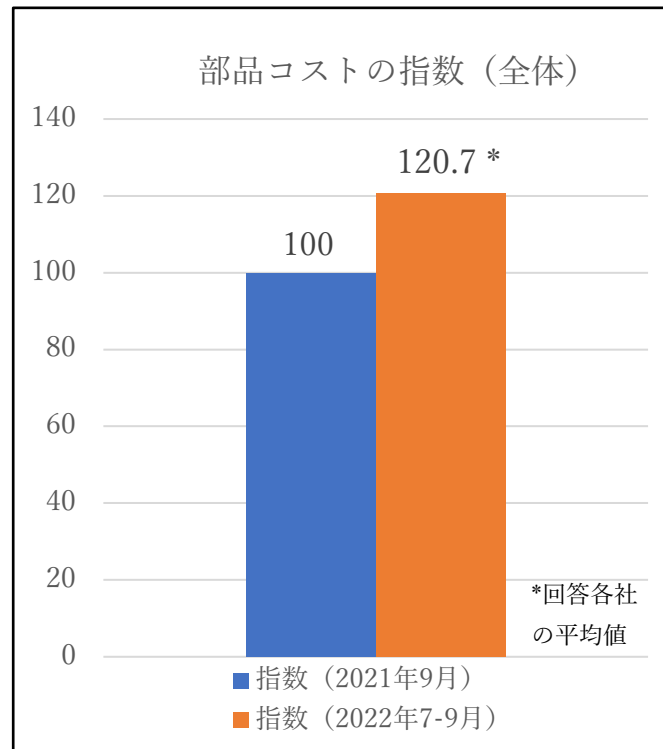
3. 副原料コスト（指数分布）

- 副原料（Mg、Si、Cu、Mn、Zn など）のコストは、2021年9月を100とした場合、足元（2022年7-9月）の分布は、ばらつきがあり、2倍以上上昇した社も存在



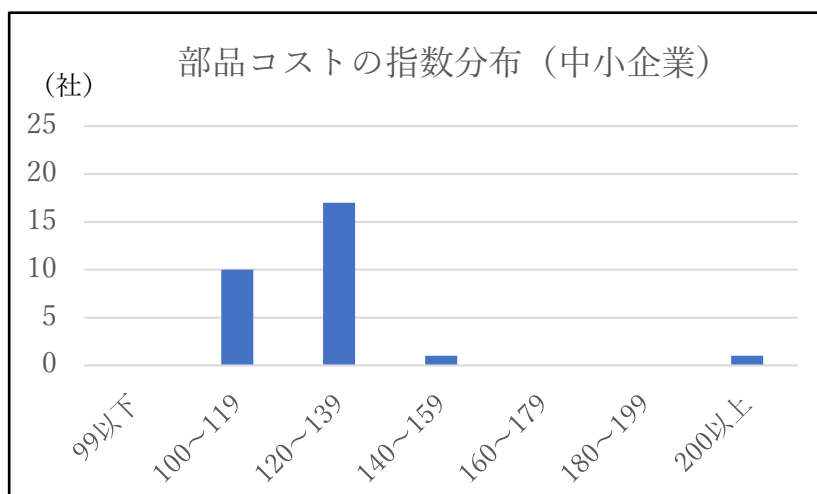
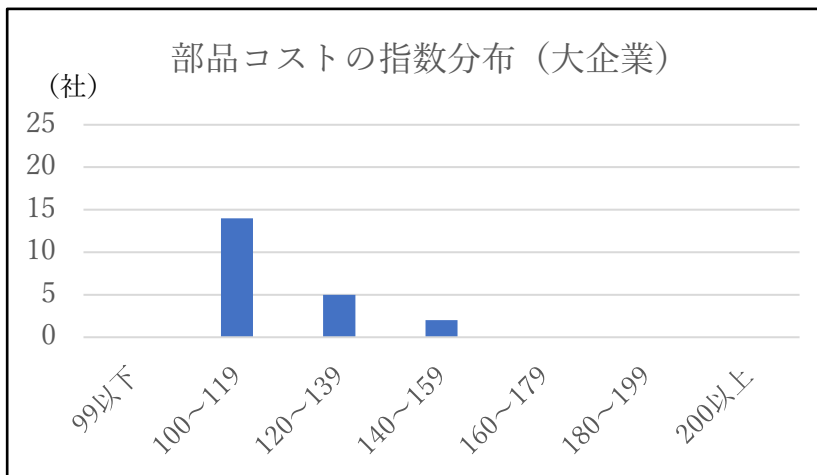
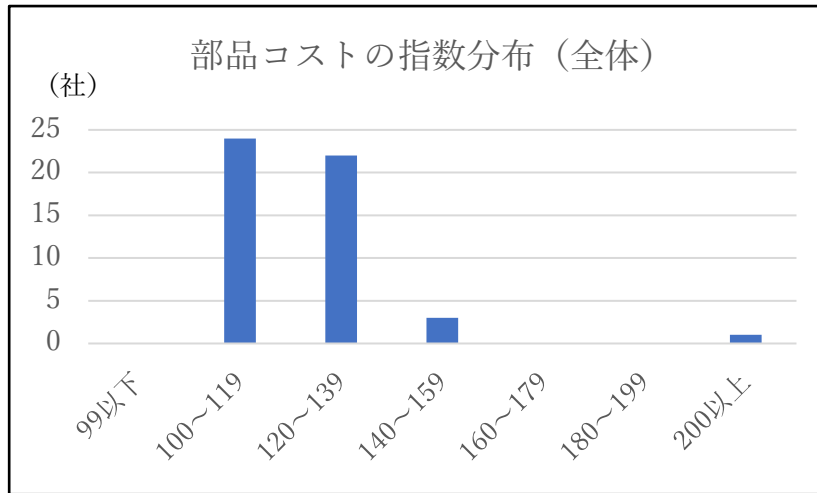
4. 部品コスト（指数平均）

- 部品（アルミ製品の組み立て部品や治具など）のコストは、2021年9月を100とした場合、足元（2022年7-9月）の指数は120.7と約2割上昇



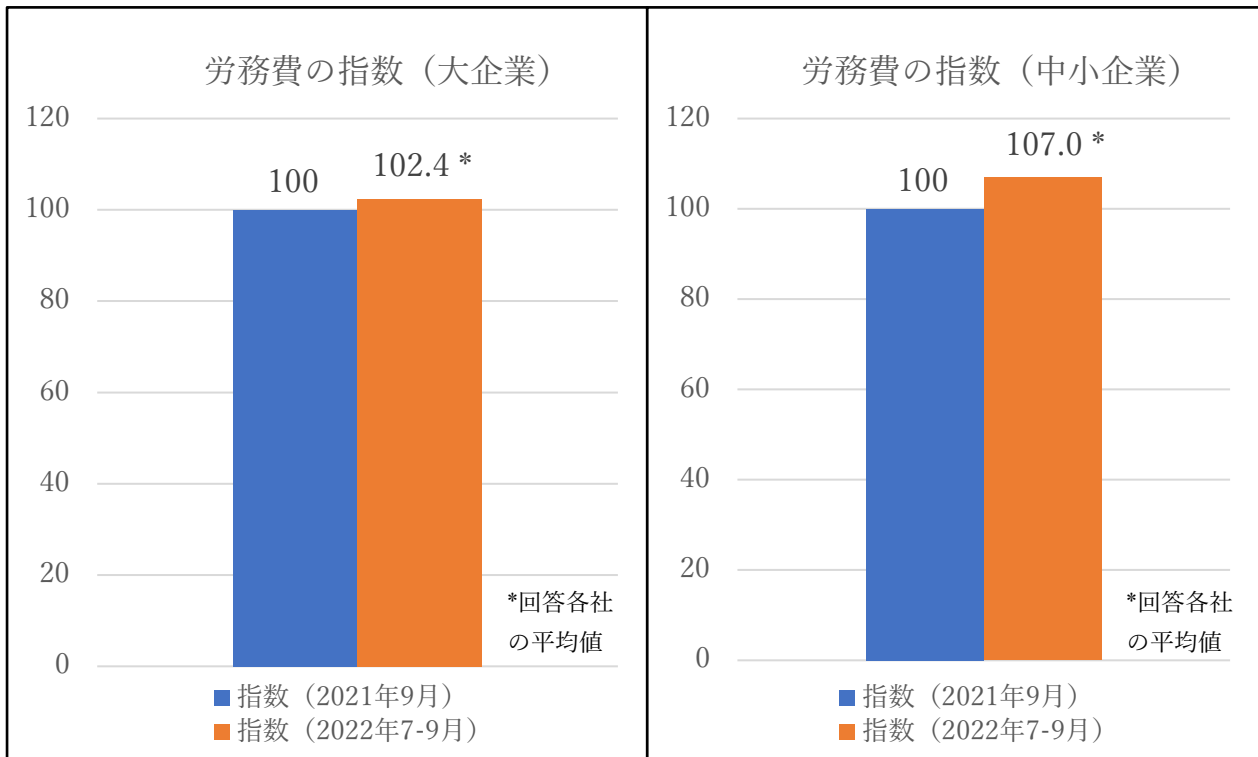
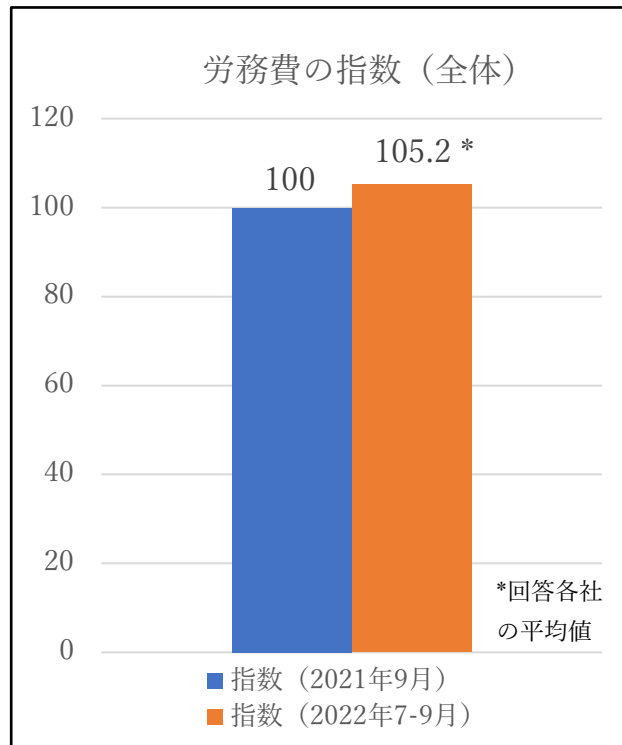
4. 部品コスト（指数分布）

- 部品（アルミ製品の組み立て部品や治具など）のコストは、2021年9月を100とした場合、足元（2022年7-9月）の指数分布は、100～139の範囲を中心にばらついている。2倍以上上昇した社も存在



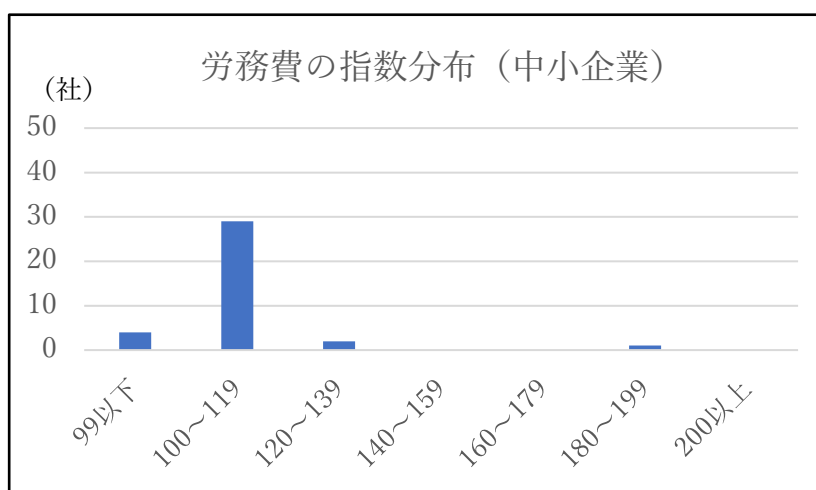
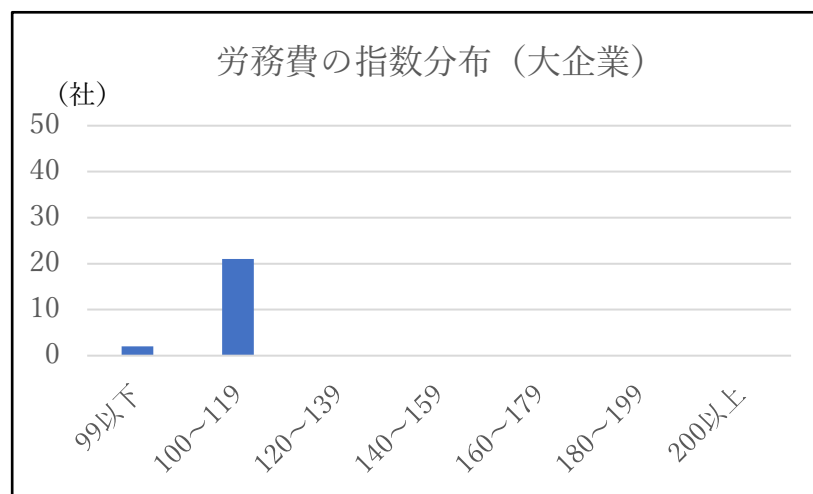
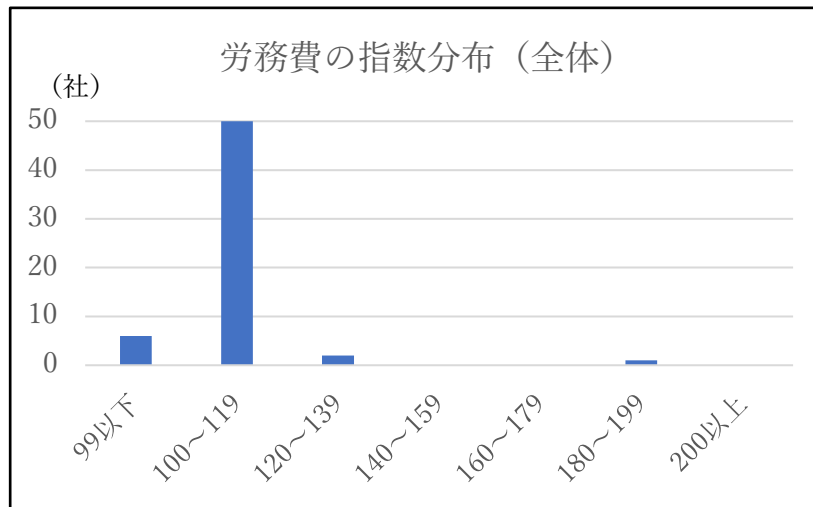
5. 労務費（指数平均）

- ・ 労務費は、2021年9月を100とした場合、足元（2022年7-9月）の指数は105.2と約5%上昇



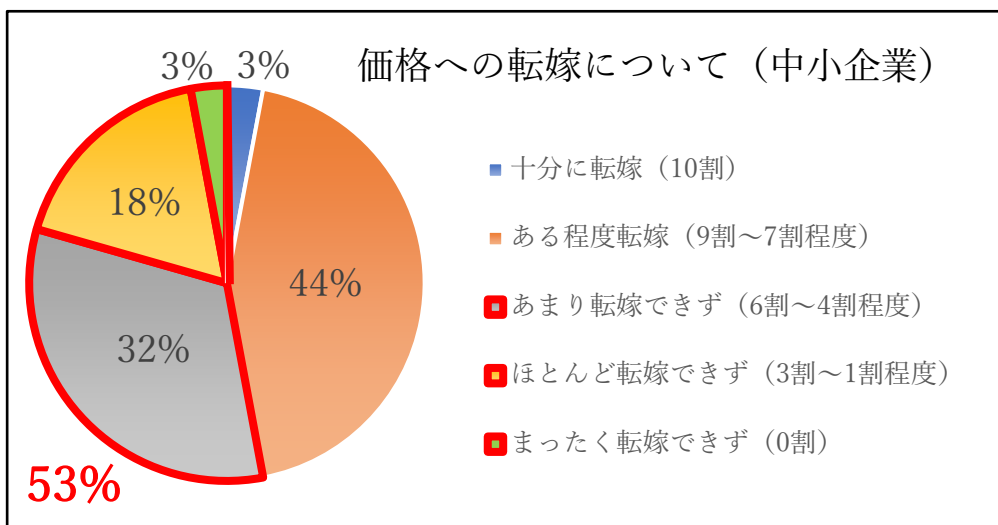
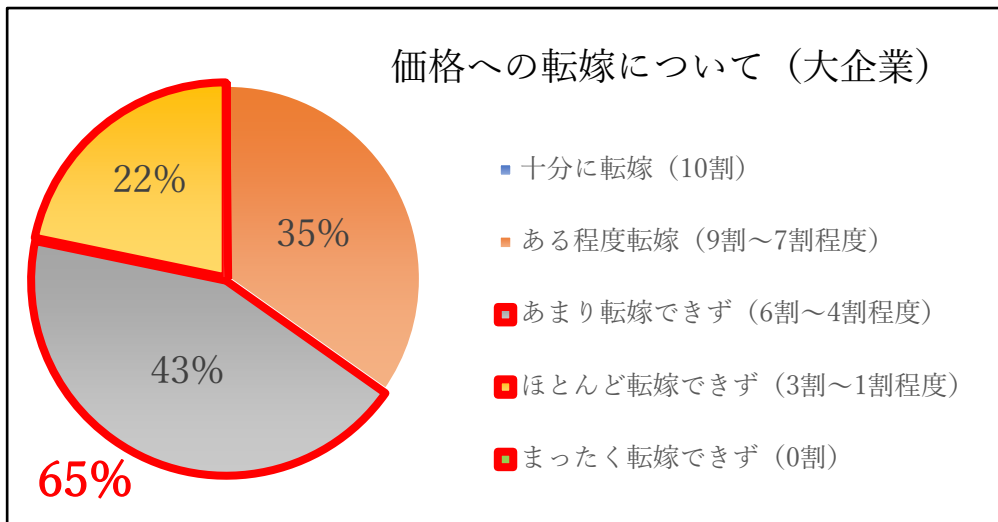
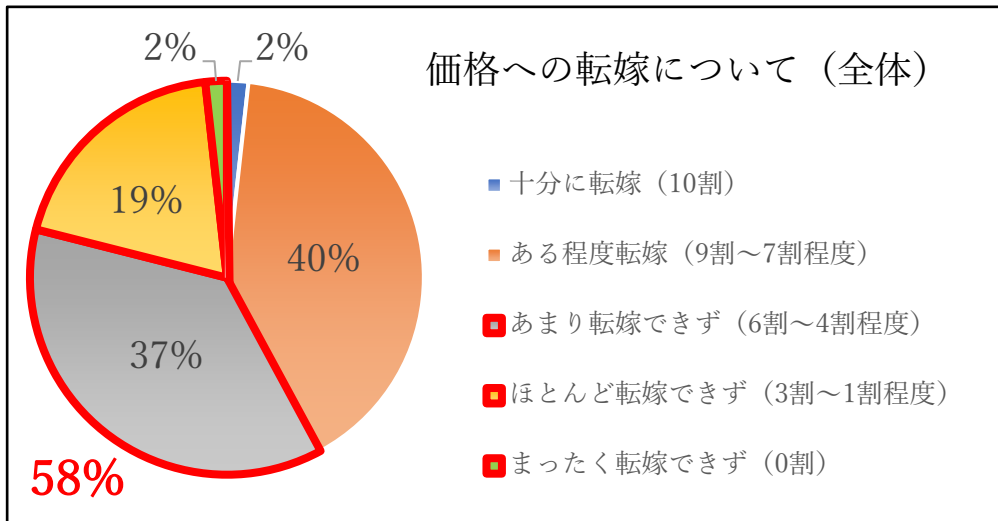
5. 労務費（指数分布）

- ・ 労務費は、2021年9月を100とした場合、足元（2022年7-9月）の指数分布は、100～119が最も多い。



6. 価格への転嫁状況

- ・1～5のコストアップの価格転嫁について6割近い企業が、「あまり転嫁できず」「ほとんど転嫁できず」「まったく転嫁できず」と回答



以上